



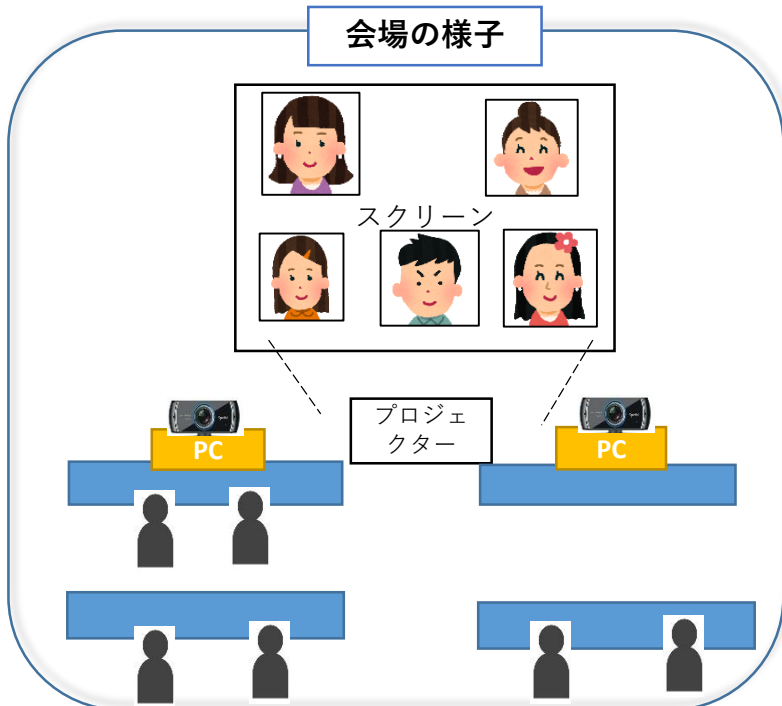
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場とWEB会議を合わせて、ハイブリッド形式で実施致しました。

会議次第

- 1.開会挨拶
- 2.自己紹介
- 3.令和3年度業務運営方針について
- 4.令和2年度の活動状況等について
- 5.両立支援相談に係る電話対応の流れについて
- 6.事例検討 (約50分間)
- 7.閉会挨拶

6.事例検討 治療と仕事の両立支援

会場の様子



ブレイクアウトセッションを使用し、5人と6人の2グループに分かれて事例分析会を行いました。

事例は令和2年度両立支援シンポジウムの事例を使用しました。

病気で休職中の労働者に対する会社の行動について、良かった点・悪かった点・会社はどう改善すべきかの3点に分けて意見交換を行いました。

Aチーム☆シ

- ・日々の相談者との関わりの中でも感じることであるが、労働者が会社で自分の状況や思いを正確に伝えることが出来るよう十分にフォローしていくことが重要である。
- ・そのためにも、まずはご本人が自分の状況を理解できているのか確認する必要がある、相談対応者は患者の勤務状況の情報、仕事に対する思いを本人から引き出していくことが大切。
- ・ご本人一人で、会社に伝えるのが難しそうだと判断した場合、一緒に丁寧に言葉を考えたり、個別調整支援の中でフォローしていく必要がある。

Bチーム☆シ

- ・企業は、労働者とのやり取りの機会を充分持ち、労働者が相談しやすい環境づくりを行っていくことが大切である。
- ・相談しやすい職場ができれば、その上に制度や規則を作成し、企業全体が同じ方向性をもって進むことができるように企業内周知、啓発を行っていくことが重要である。
- ・まずは、職場内において、上司と労働者本人の信頼関係がしっかり築けているかどうか重要である。

副所長より

和やかながらも、事例検討の時間は緊張感をもって促進員の皆様が日頃感じられていることを模擬事例に当てはめられ討論が行えたことは、今後の治療と仕事の両立支援活動において有益であったと思います。これからもWeb会議を定期的で開催し、促進員間の連携が更に深まればと思います。

産業保健専門職 福田より

初めてのハイブリッド形式での開催ということで、ご不便をおかけしたこともあったかと思っています。様々な視点で、大変有意義な意見交換が出来たと思います。今後多職種での事例検討会を開催予定であり、今回の学びを活かして参ります。

